

## 篠山城(桐ヶ城)(国史跡, 百名城)(篠山市北新町)

篠山城（ささやまじょう）は、兵庫県篠山市北新町にある近世城郭。篠山盆地の中央部、笹山とよばれる小丘陵に築かれた平山城。国の史跡に指定されている。

### 歴史・沿革

#### 江戸時代

1609 年（慶長 14 年）徳川家康は、松平康重を常陸国笠間城から丹波国八上城に移し、さらに新城の築城を命じた。これは、山陰道の要衝である丹波篠山盆地に城を築くことによって、大坂の豊臣氏をはじめとする西国諸大名のおさえとするのが目的であったとされる。

篠山盆地中心部の丘陵である笹山を築城地と定め、藤堂高虎が縄張を担当した。普請総奉行を池田輝政が務め、15 か国 20 の大名の助役による天下普請により 6 か月で完成した。

明和 3 年、藩校「振徳堂」を建設。

以後、松平三家八代、青山家六代の居城として明治を迎えた。

### 縄張り

城は内堀と外堀を有し、内堀内に本丸と二の丸を設ける。外堀の外周は 1 辺約 400 メートルのほぼ正方形で、東・北・南に馬出を設けていた。二の丸を囲む土塀は所々、屏風折りに外側に突き出しており狭間の死角を少なくする工夫がされていた。築城当初より天守台はあるが天守は建設されなかった。これは石垣や堀をはじめとする城の造りがあまりにも堅固すぎることを幕府が懸念したためと伝えられている。

三の丸内に上級武士、外堀沿いに中級・下級武士、外堀南に足輕長屋、街道沿いに町や社寺が配置された。三の丸は現在三の丸広場になっておりデカンショ祭や篠山 ABC マラソンのスタート・ゴール地点などの催し物にも使用されている。外堀沿いには桜が約 1000 本、植えられている。これは 1915 年（大正 4 年）、篠山町青年会が大正天皇即位を記念して東堀に植樹した事に始まる。

Wikipedia による

